

三重県経済の現状と見通し<2021年6月>

1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	基調判断(方向等)	基調判断の 前月との 比較(注1)	水準評価 (注2)
		詳細		
総括判断	景気の現状	厳しい状況にあるものの、一部で下げ止まりの動きがみられる	→	☁️ ☂️
		依然として厳しい状況にあるが、米国や中国の景気回復などにより、企業部門を中心に下げ止まりの動きがみられる。		
家計部門	個人消費	持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる	→	☁️
		大型小売店販売額(全店ベース)は、2か月振りの前年比増加		
	住宅投資	弱い動きがみられる	→	☁️
		住宅着工戸数は、3か月振りの前年比増加		
	観光	落ち込んでいる	→	☂️
県内施設延べ宿泊者数は、21か月振りの前年比増加				
雇用・所得	下げ止まりの動きがみられる	→	☁️ ☂️	
	有効求人倍率(季節調整値)は、8か月振りの前月比低下			
企業部門	企業活動	上向きつつある	→	☁️ ☂️
		鉱工業生産指数は、2か月連続の前年比上昇		
	企業倒産	小康状態	→	☁️
海外部門	輸出	上向きつつある	→	☁️ ☂️
		四日市港通関輸出額は、2か月連続の前年比増加		
	設備投資	持ち直しつつある	→	☁️
公共部門	公共投資	持ち直している	↗️	☁️
		公共工事請負金額は、4か月連続の前年比増加		
その他	物価	上昇の兆し	↗️	△
		津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、10か月振りの前年比上昇		

当面の見通し

ワクチンが行き渡るまでは自粛する動きが残り、新型コロナ流行前を下回る状況が続く見通し

高齢者を中心にワクチン接種が本格化しているものの、引き続き感染リスクが高いとされる外出などの消費活動を自粛する動きは残るとみられ、経済活動の水準は新型コロナ流行前を下回る状況が続く見通し。

(注1)「基調判断の前月との比較」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、↗️:上方修正、⇔:据え置き、↘️:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる)  
したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

(注2)「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、

☀️:晴、☀️|☁️:晴～曇、☁️:曇、☁️|☂️:曇～雨、☂️:雨、を示す。

(注3)個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い合わせ先

三十三総研 調査部 佐藤

電話:059-354-7102

Mail:33ir@33bank.co.jp

2. 個別部門の動向: 家計部門

個人消費	持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁

《現状》

- 個人消費は、持ち直し傾向にあるが、一部に下押し圧力がみられる。
- 個人消費の動向を支出者側からみると、4月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+5.8%と2か月連続の増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同▲5.9%と8か月連続の減少(前掲図表1)。
- 個人消費の動向を販売者側からみると、4月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースで前年比+1.2%と2か月振りの増加となったほか、既存店ベースでも同+2.3%と3か月振りの増加(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同▲3.9%)が2か月連続の減少となった一方、衣料品(同+55.7%)が2か月連続の増加となったほか、家庭用電気機械器具(同+10.6%)も増加。
- 5月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、5,208台(前年比+59.7%)となり、前年比で8か月連続の増加(図表3)。車種別にみると、小型車(同▲1.0%)が2か月振りに減少した一方、普通車(同+100.9%)、軽乗用車(同+88.4%)がそれぞれ8か月連続の増加。

《見通し》

- 東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、5月の家計部門の水準は34.2と、前月(36.4)より小幅に悪化。ウォッチャーの声では、「緊急事態宣言等の影響で厳しい状況が続いている」といった声が聞かれた。もっとも、2~3か月先の景気の先行きに対する判断DIについては、43.6と3か月振りに改善しており、ワクチン接種が本格化し始めたことを受け、消費者マインドの改善が期待される状況に。
- もっとも、地域経済分析システム「V-RESAS」をみると、執筆時点で最新データである6月第1週の移動人口は新型コロナ前の2019年同週比▲19%、飲食店情報閲覧数は同▲48%と減少が続いており、個人消費の先行きについては新型コロナワクチンがある程度行き渡るまでは、感染拡大を理由とした活動制限が繰り返されるとみられ、消費低迷は長期化する可能性。

◆4月 勤労者世帯・消費支出

- 326千円 前年比 +5.8% (2か月連続の増加)

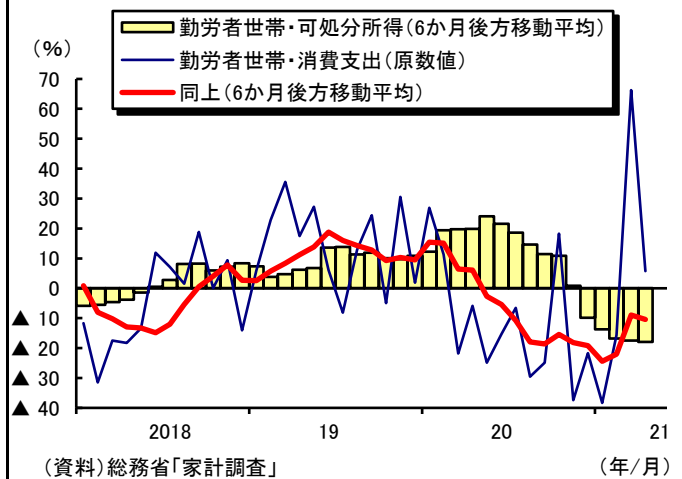
◆4月 大型小売店販売額

- 全店 前年比 +1.2% (2か月振りの増加)
- 既存店 前年比 +2.3% (3か月振りの増加)

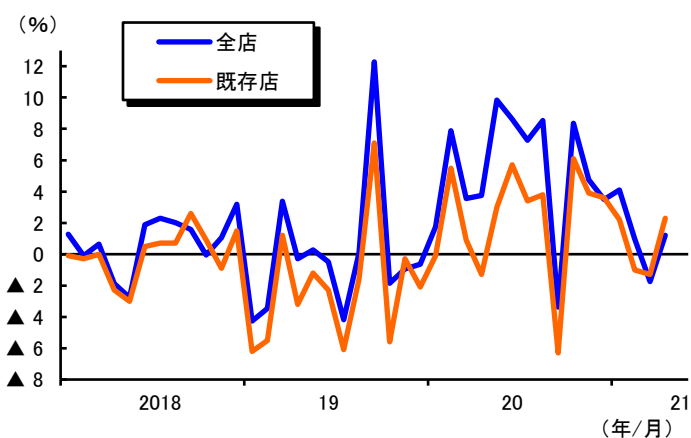
◆5月 新車乗用車販売台数<含む軽>

- 5,208台 前年比 +59.7% (8か月連続の増加)
- ・普通車 前年比 +100.9% (8か月連続の増加)
- ・小型車 前年比 ▲1.0% (2か月振りの減少)
- ・軽乗用車 前年比 +88.4% (8か月連続の増加)

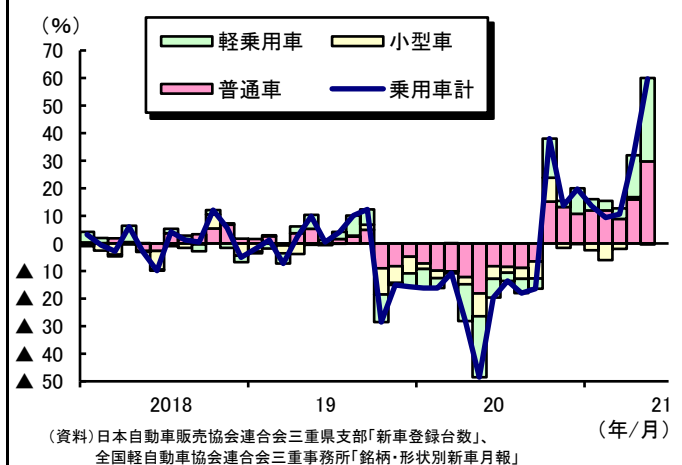
図表1 津市消費支出等<前年比>



図表2 大型小売店販売額<前年比>



図表3 新車乗用車販売台数<前年比>



<b>住宅投資</b>	<b>弱い動きがみられる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁

**《現状》**  
 ○住宅投資は、弱い動きがみられる。  
 ○4月の住宅着工戸数は、923戸(前年比+33.2%)となり、前年比で3か月振りの増加(図表4)。利用関係別にみると、分譲住宅(同▲11.0%)が2か月連続で減少した一方、貸家(同+100.0%)が9か月振り、持家(同+6.9%)が2か月振り、給与住宅(同+23.0倍)が2か月連続で増加。

**《見通し》**  
 ○名古屋に近い四日市市や桑名市の近鉄電車が停車する駅周辺ではマンション用地の需要が高まっているほか、ワクチン接種の加速によって住宅取得マインドが改善し、住宅投資は上向く兆しがある。もともと、世界的な品不足を受けた木材価格の高騰「ウッドショック」が国内の住宅業界にも波及し、大手ハウスメーカーは木造住宅の値上げに踏み切る動きがみられ、住宅取得を先延ばしする動きが広がることが懸念される。

**◆4月 住宅着工戸数**

- 923戸 前年比 +33.2% (3か月振りの増加)
- ・持家 417戸 前年比 +6.9% (2か月振りの増加)
- ・貸家 386戸 前年比 +100.0% (9か月振りの増加)
- ・給与住宅 23戸 前年比 +23.0倍 (2か月連続の増加)
- ・分譲住宅 97戸 前年比 ▲11.0% (2か月連続の減少)

**図表4 新設住宅着工戸数<前年比>**

(資料)国土交通省「建築着工統計」 (年/月)

<b>観光</b>	<b>落ち込んでいる</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☔

**《現状》**  
 ○観光は、落ち込んでいる。  
 ○3月の三重県内施設延べ宿泊者数は、459千人泊(前年比+13.8%)となり、前年比で21か月振りの増加(図表5)。外国人宿泊者数については0.6千人泊(同▲81.4%)となり、前年比で14か月連続の大幅減。

**《見通し》**  
 ○報道によると、三重県は観光地を支援するため県民向けの旅行需要喚起策「みえ旅プレミアムキャンペーン」(仮称)を早ければ7月中に、本格的な旅行需要の回復を見据えて遠方からの誘客に向けた取組も8月に始める方針を示しており、感染状況に左右されつつも国内客は徐々に持ち直すことが期待される。なお、海外渡航の制限が世界中で続くなか、インバウンドはほぼゼロの状況が当面続く見通し。

**◆3月 県内施設延べ宿泊者数**

- 459千人泊 前年比 +13.8% (21か月振りの増加)
- ・外国人 0.6千人泊 前年比 ▲81.4% (14か月連続の減少)

**図表5 三重県内施設延べ宿泊者数**

(資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」 (年/月)

雇用・所得	下げ止まりの動きがみられる	基調判断の前月との比較	⇒
		水準評価	☁️☔

＜現状＞

- 雇用・所得情勢は、下げ止まりの動きがみられる。
- 4月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.11倍(前月差▲0.02ポイント)と8か月振りの低下。新規求人倍率(季節調整値)も、1.77倍(同▲0.27ポイント)と2か月振りの低下(図表6)。
- 4月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+12.6%と2か月連続の増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+45.8%)では、輸送用機械(同+60.2%)や汎用機械(同+186.2%)、生産用機械(同+40.3%)が増加。非製造業では、運輸業、郵便業(同▲16.8%)が減少した一方、その他サービス業(同+26.3%)や医療、福祉(同+7.4%)などが増加。
- 3月の所定外労働時間指数は、前年比±0.0%と横這い。名目賃金指数(同+1.3%)については4か月振りの上昇で、きまって支給する給与(同+0.3%)は8か月振りの上昇(図表8)。

＜見通し＞

- 東海財務局津財務事務所が発表した2021年4～6月期の法人企業景気予測調査によると、従業員判断BSI(「不足気味」-「過剰気味」)は製造業が前期(▲5.0)の「過剰気味」超から今期は+20.5の「不足気味」超に転じており、製造業の雇用環境は改善しつつある。なお、四日市市では飲食店への時短要請が続いており、飲食業などでは雇用調整圧力が高まる懸念される。
- 所得については、製造業は生産活動の再開に伴い持ち直すことが期待される一方、サービス業では資金繰りの厳しい状態が続いているとみられ、基調的な賃金上昇は期待できない状況。

◆4月 求人倍率＜季節調整値＞

- 有効求人倍率 1.11倍  
前月差 ▲0.02ポイント (8か月振りの低下)
- 新規求人倍率 1.77倍  
前月差 ▲0.27ポイント (2か月振りの低下)

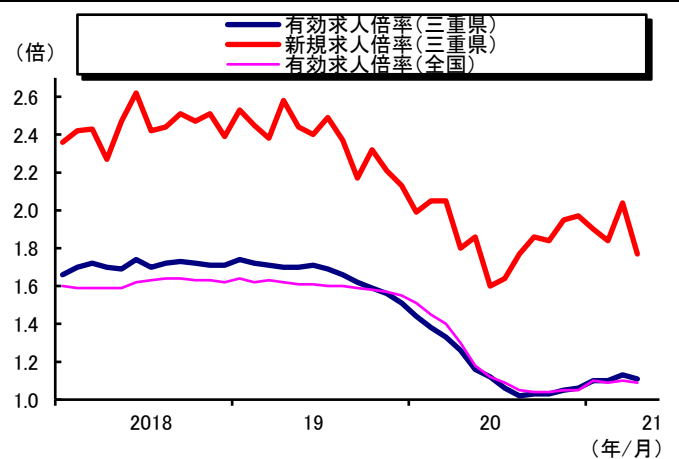
◆4月 新規求人数＜学卒・パートタイム除く＞

- 前年比 +12.6% (2か月連続の増加)

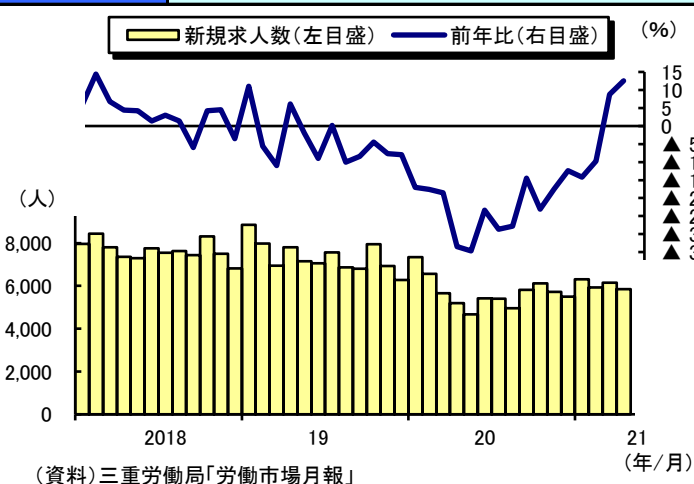
◆3月 労働時間・賃金指数＜調査産業計＞

- 所定外労働時間指数  
前年比 ±0.0% (横這い)
- 名目賃金指数  
前年比 +1.3% (4か月振りの上昇)  
・きまって支給する給与  
前年比 +0.3% (8か月振りの上昇)

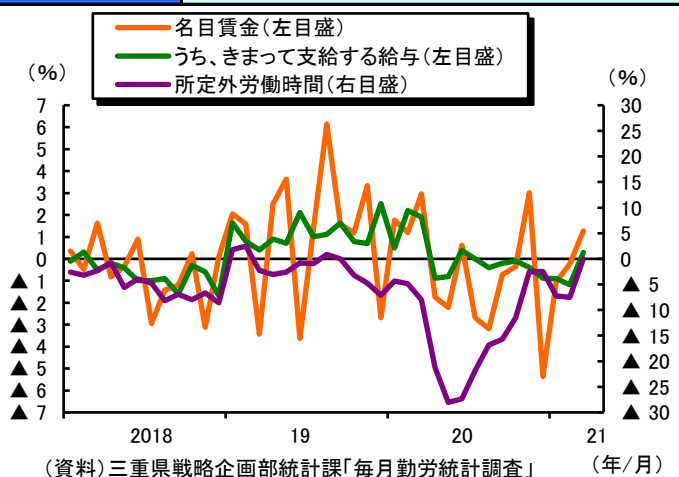
図表6 有効・新規求人倍率＜季節調整値＞



図表7 新規求人数＜学卒・パート除く＞



図表8 労働時間・賃金指数＜調査産業計、前年比＞



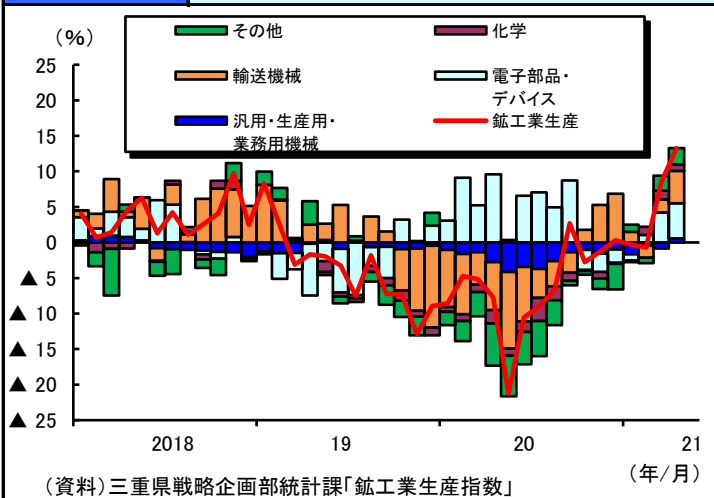
### 3. 個別部門の動向:企業部門

<b>企業活動</b>	<b>上向きつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁️ ☔️
<p><b>《現状》</b>                  ○企業の生産活動は、上向きつつある。                  ○4月の鉱工業生産指数は、前年比+13.3%と2か月連続の上昇(図表9)。業種別にみると、食料品(同▲7.3%)が3か月連続の低下となった一方、電子部品・デバイス(同+17.8%)が3か月連続で上昇したほか、輸送機械(同+24.3%)が2か月連続、化学(同+7.6%)も3か月連続で上昇。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○先行き生産は、緩やかに持ち直しに向かう見通し。                  ○電子部品・デバイスは、半導体市場調査会社の台湾Trend Forceによると、在宅勤務の定着によるノートパソコン需要や新型ゲーム機向けの需要の高まり等を背景に、2021年7~9月期もNAND価格が上昇するとの予測を発表するなど、NANDフラッシュメモリの生産拡大が期待される状況。                  ○輸送機械は、コロナ禍で「密」回避への意識が高まっているなか自動車需要は堅調であるものの、世界的な半導体不足の影響から、Hondaは5月に5日間鈴鹿製作所の生産を停止するなど、今後も生産調整を迫られる局面が続くことが懸念される。</p>			

**◆4月 鉱工業生産指数<2015年=100>**

○ 105.9	前年比 +13.3%	(2か月連続の上昇)
・汎用・生産用・業務用機械工業	前年比 +8.5%	(21か月振りの上昇)
・電子部品・デバイス工業	前年比 +17.8%	(3か月連続の上昇)
・輸送機械工業	前年比 +24.3%	(2か月連続の上昇)
・化学工業	前年比 +7.6%	(3か月連続の上昇)

**図表9 鉱工業生産指数<前年比>**



<b>企業倒産</b>	<b>小康状態</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁️

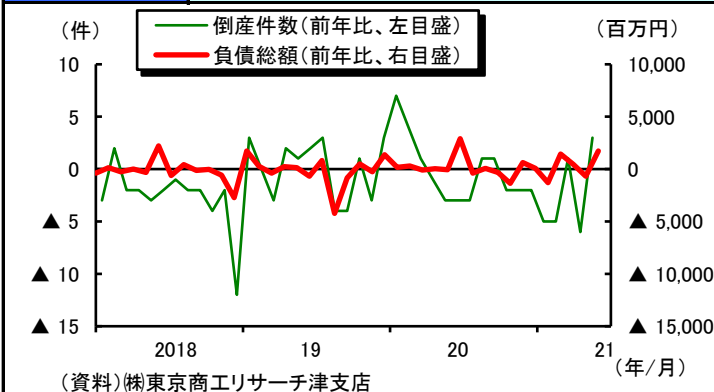
**《現状》**  
 ○企業倒産は、小康状態。  
 ○5月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は6件(前年比+3件)と前年比で2か月振りの増加。負債総額は2,173百万円(同+1,731百万円)と前年比で2か月振りの増加(図表10)。

**《見通し》**  
 ○金融機関において引き続き貸出先へのリスケジュールやコロナ対策のセーフティネット融資を積極的に提案していることもあり、倒産発生は抑制された状況となっている。もともと、当月において老舗の宿泊業者の大型倒産が発生しており、依然として続く外出自粛や休業、時短営業などが影響を及ぼし、サービス関連を中心に「息切れ破たん」や「あきらめ型」などの形態の倒産が進むことが懸念される。

**◆5月 企業倒産**

○ 倒産件数 6件	前年比 +3件	(2か月振りの増加)
○ 負債総額 2,173百万円	前年比 +1,731百万円	(2か月振りの増加)

**図表10 倒産件数・負債総額<負債総額1,000万円以上>**



<b>設備投資</b>	<b>持ち直しつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁
<p><b>《現状》</b>                  ○企業の設備投資は、持ち直しつつある。                  ○4月の非居住用建築物着工床面積は、64千㎡(前年比+12.0%)と前年比で3か月連続の増加。5月の貨物車登録台数(除く軽)は、366台(同+31.7%)と前年比で4か月連続の増加(図表11)。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○2021年4～6月期の法人企業景気予測調査によると、県内企業の2021年度設備投資見込みは大企業が前年度比+6.0%、中堅企業が同▲29.1%、中小企業▲46.3%と、中堅・中小企業の投資マインドの弱さは持続。                  ○なお、精密部品メーカーの佐藤製作所(桑名市)は世界規模で活発なインフラ投資需要に応えるために、建設用重機の油圧制御機器部品などを製造する新工場を桑名市内に建設することを発表。米国や中国を中心に経済回復が進むなか、製造業を中心に先送りしていた投資を再開することが見込まれる。道路交通網の整備により立地の優位性が高まるなか、大企業の県内投資も進むとみられ、持ち直して推移する見通し。</p>			
<p><b>◆4月 非居住用建築物着工床面積</b>                  ○ 64千㎡ 前年比 +12.0% (3か月連続の増加)</p> <p><b>◆5月 貨物車登録台数</b>                  ○ 366台 前年比 +31.7% (4か月連続の増加)</p>		<p><b>図表11 設備投資関連指標&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)国土交通省「建築着工統計」、日本自動車販売協会連合会三重県支部「新車登録台数」、三重県戦略企画部統計課「鉱工業生産指数」</p>	

**4. 個別部門の動向:海外部門**

<b>輸出</b>	<b>上向きつつある</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	⇒
		<b>水準評価</b>	☁☔
<p><b>《現状》</b>                  ○輸出は、上向きつつある。                  ○5月の四日市港通関輸出額は、594億円(前年比+36.0%)となり、前年比で2か月連続の増加(図表12)。コロナ禍で急速に落ち込んだ反動が出る形で大幅な増加に。品目別にみると、自動車の部分品が7か月振りに増加したほか、有機化合物やプラスチックなどの化学製品、電気回路等の機器なども増加。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○産業高度化に伴う設備投資の拡大などを背景に、電気機器類などに対する需要が堅調な、輸出額の約2割を占める中国向けが今後も輸出全体をけん引すると予想される。もともと、輸出額の1割を占める英国や、7%を占める台湾、5%を占めるベトナムなどでは変異株による感染者が急増しており、経済活動再開の遅れや停滞が、輸出拡大の足かせとなる可能性。</p>			
<p><b>◆5月 四日市港通関輸出額</b>                  ○ 594億円 前年比 +36.0% (2か月連続の増加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・石油製品 8億円 前年比 ▲68.3% (11か月連続の減少)</li> <li>・有機化合物 57億円 前年比 +42.1% (4か月連続の増加)</li> <li>・電気回路等の機器 55億円 前年比 +57.5% (2か月連続の増加)</li> <li>・乗用車 16億円 前年比 ▲76.2% (4か月連続の減少)</li> <li>・自動車の部分品 46億円 前年比 +166.8% (7か月振りの増加)</li> <li>・科学光学機器 13億円 前年比 +80.5% (3か月連続の増加)</li> </ul>		<p><b>図表12 四日市港通関輸出額&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)名古屋税関四日市支署「管内貿易概況」</p>	

### 5. 個別部門の動向:公共部門

<b>公共投資</b>	<b>持ち直している</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	➤
		<b>水準評価</b>	☁
<p><b>《現状》</b>                  ○公共投資は、持ち直している。                  ○5月の公共工事請負状況をみると、請負件数は前年比+16.5%と2か月連続の増加。請負金額は同+26.1%と4か月連続の増加(図表13)。中部地方整備局において北勢バイパス坂部トンネルや国道23号の高架橋の改良・補修、中日本高速道路において伊勢自動車道の耐震に関する大型工事があった影響によるもの。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○紀勢自動車道勢和多気JCT～大宮大台ICの4車線化など道路交通網整備の大型工事が行われるほか、防災・減災対策の工事も引き続き行われるとみられ、持ち直して推移する見通し。3月に事業化が決定された近鉄四日市駅周辺を交通ターミナルとして整備する「バスタプロジェクト」も長期的に押し上げに作用する見込み。</p>			
<p><b>◆5月 公共投資</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共工事請負件数 198件 前年比 +16.5% (2か月連続の増加)</li> <li>○ 公共工事請負金額 158億円 前年比 +26.1% (4か月連続の増加)</li> </ul>		<p><b>図表13 公共工事請負金額</b></p> <p>(資料)東日本建設業保証㈱三重支店 (年/月)</p>	

### 6. 個別部門の動向:その他

<b>物価</b>	<b>上昇の兆し</b>	<b>基調判断の前月との比較</b>	➤
		<b>水準評価</b>	➤
<p><b>《現状》</b>                  ○物価は、上昇の兆し。                  ○5月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+0.3%と10か月振りの上昇(図表14)。光熱・水道(同±0.0%)の下落が一服したほか、住居(同+0.8%)や生鮮食品を除く食料(同+0.4%)などが上昇。</p> <p><b>《見通し》</b>                  ○物価の先行きについて、当面は上昇要因と低下要因が入り混じる中で小幅な上昇圏で推移する見込み。上昇要因としては、①原油価格の上昇を受けてエネルギー価格がプラスに作用すること、②前年の「Go Toトラベル」による宿泊料の大幅下落の反動が出ること、などが挙げられる。一方、低下要因としては、①携帯電話通信料の引き下げが下押しすること、②対面や移動を伴うサービス需要の回復には時間を要するとみられ、サービス価格が上がり難い状態が続くこと、などが挙げられる。</p>			
<p><b>◆5月 消費者物価指数&lt;生鮮食品を除く、2015年=100&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 101.6 前年比 +0.3% (10か月振りの上昇)</li> <li>・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +0.4% (2か月振りの上昇)</li> <li>・住居 前年比 +0.8% (5か月連続の上昇)</li> <li>・光熱・水道 前年比 ±0.0% (横這い)</li> <li>・交通・通信 前年比 ▲0.8% (8か月連続の下落)</li> <li>・教養娯楽 前年比 +0.6% (5か月連続の上昇)</li> </ul>		<p><b>図表14 津市消費者物価指数&lt;前年比&gt;</b></p> <p>(資料)総務省「消費者物価指数」 (年/月)</p>	

県内経済



トピックス

(2021年 5月)

## 1. 三十三銀行が誕生

- 5月1日、三十三フィナンシャルグループ(FG)傘下で三重県北部を地盤とする三重銀行と同県中南部を中心に展開する第三銀行が合併し、「三十三銀行」が発足。三十三銀行の預金は約3兆8,000億円、貸出金は約2兆8,000億円と、いずれも中部3県の地銀では愛知銀行と中京銀行を上回り5位に。
- 三十三銀行は、県内外の商圈の重なる29店舗を今年7月から約1年かけて統合する。1つの施設に複数の支店を集める「店舗内店舗方式」で統合し、店名や口座を維持したまま集約する。コスト削減の一方で、事業の拡大や事業承継、M&A(企業合併・買収)の支援などに力を入れる方針。

## 2. 自治体の施策を使った三重県の移住者が過去最多に

- 5月20日、三重県は2020年度の県および市町の施策を利用した県外からの移住者数が540人と、統計を始めた2015年度以降で最多となったと発表。県外からの移住者数は、県が東京都有楽町に「ええとこやんか三重 移住相談センター」を開設した2015年度から取りまとめ、2015年度からの6年間で累計1,900人を超えた。
- 県は移住者数が増加している主な要因として、①東京に移住相談センターを設置するとともに大阪や名古屋でも市町と連携した移住相談会等を実施したこと、②すべての市町に移住相談窓口を設置し、空き家バンク制度の運用、移住・定住に向けた補助・助成制度の実施といった受入体制を充実してきたことなど、オール三重で移住者を受け入れようという努力をしてきた積み重ねの成果としている。

## 3. 商業リゾート施設「VISON(ヴィソン)」をハブに高速バス・路線バスが再編

- 5月20日、三重交通は7月1日から国内最大級のリゾート施設「VISON」でバスターミナルを開業し、県南部のバス路線を再編すると発表。県中南部の新たなハブ(交通結節点)と位置づけ、新たなバス交通ネットワークを構築。公共交通の利用促進による渋滞緩和や環境改善などSDGs達成に向けた取組を推進する方針。
- VISONには、東京方面から同県の尾鷲市や熊野市方面に向かう夜行高速バスや名古屋市と熊野市方面を結んでいた高速バスも立ち寄り、大都市からVISONへのアクセスを確保するほか、伊勢神宮との高速バスや松阪駅などを結ぶ路線バスなど約30路線が乗り入れる。VISONの年間来場者見込み800万人のうち、バス利用者は16万人を計画する。

以上



# 景 気 指 標

三十三総研  
2021/6/29

## <三重県>

(注) ( )内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比

	2019年	2020年	2020年			2021年	2021年				
			4~6月	7~9月	10~12月		1~3月	1月	2月	3月	4月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 0.1)	( 5.3)	( 7.4)	( 4.0)	( 5.4)	( 1.1)	( 4.1)	( 1.0)	(▲ 1.8)	( 1.2)	
同 (既存店)	(▲ 2.2)	( 2.3)	( 2.5)	( 0.2)	( 4.5)	(▲ 0.0)	( 2.2)	(▲ 1.0)	(▲ 1.3)	( 2.3)	
新車販売台数(軽を除く、台)	58,613	50,995	9,471	12,558	13,862	16,764	4,445	5,197	7,122	3,890	3,525
	(▲ 2.6)	(▲ 13.0)	(▲ 28.7)	(▲ 20.9)	( 24.0)	( 11.0)	( 13.4)	( 9.8)	( 10.4)	( 25.4)	( 41.3)
うち乗用車販売台数(台)	51,181	44,665	8,182	10,990	12,202	14,919	4,043	4,598	6,278	3,383	3,104
	(▲ 4.0)	(▲ 12.7)	(▲ 29.7)	(▲ 19.7)	( 24.4)	( 12.2)	( 16.2)	( 10.1)	( 11.4)	( 28.2)	( 44.8)
新車軽自動車販売台数(台)	41,008	37,392	6,568	9,882	9,780	12,173	3,332	3,896	4,945	3,208	2,792
	(▲ 0.4)	(▲ 8.8)	(▲ 33.5)	(▲ 8.7)	( 22.4)	( 9.1)	( 8.5)	( 8.6)	( 9.8)	( 41.6)	( 83.0)
うち乗用車販売台数(台)	32,393	29,265	5,050	7,805	7,455	9,779	2,650	3,136	3,993	2,456	2,104
	(▲ 0.3)	(▲ 9.7)	(▲ 34.8)	(▲ 10.0)	( 21.3)	( 9.2)	( 9.9)	( 8.3)	( 9.5)	( 37.4)	( 88.4)
新設住宅着工戸数(戸)	10,162	9,558	2,080	2,275	2,764	2,389	815	757	817	923	
	(▲ 4.3)	(▲ 5.9)	(▲ 24.9)	(▲ 12.4)	( 4.6)	(▲ 2.1)	( 14.6)	(▲ 16.3)	(▲ 0.8)	( 33.2)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	8,600	5,078	507	1,326	1,769	1,003	286	258	459		
	(▲ 3.4)	(▲ 40.9)	(▲ 76.7)	(▲ 44.7)	(▲ 14.7)	(▲ 32.1)	(▲ 48.9)	(▲ 49.7)	( 13.8)		
有効求人倍率(季調済)	1.66	1.16	1.18	1.04	1.05	1.11	1.10	1.10	1.13	1.11	
新規求人倍率(季調済)	2.40	1.87	1.75	1.75	1.92	1.93	1.90	1.84	2.04	1.77	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	88,206	68,376	15,287	16,177	17,333	18,388	6,305	5,928	6,155	5,853	
	(▲ 4.0)	(▲ 22.5)	(▲ 30.6)	(▲ 23.8)	(▲ 18.1)	(▲ 6.1)	(▲ 14.2)	(▲ 9.8)	( 8.7)	( 12.6)	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.6)	(▲ 0.9)	(▲ 0.9)	(▲ 2.3)	(▲ 2.0)	( 0.0)	(▲ 1.0)	(▲ 0.2)	( 1.3)		
実質賃金指数(同)	( 0.4)	(▲ 0.8)	(▲ 1.0)	(▲ 2.5)	(▲ 1.1)	( 0.3)	(▲ 0.6)	( 0.0)	( 1.5)		
所定外労働時間(同)	(▲ 1.7)	(▲ 13.7)	(▲ 25.4)	(▲ 18.1)	(▲ 5.6)	(▲ 4.9)	(▲ 7.3)	(▲ 7.5)	( 0.0)		
常用雇用指数(同)	( 0.1)	( 0.8)	( 0.1)	( 1.0)	( 0.9)	( 0.6)	( 0.4)	( 0.1)	( 1.2)		
鉱工業生産指数	(▲ 4.1)	(▲ 6.2)	(▲ 13.2)	(▲ 4.4)	(▲ 1.3)	( 2.7)	(▲ 0.3)	(▲ 0.7)	( 8.5)	( 13.3)	
	-	-	<▲ 9.6>	< 6.1>	< 2.8>	< 3.9>	< 1.9>	< 0.6>	< 0.5>	< 4.2>	
生産者製品在庫指数	( 3.2)	( 11.6)	( 14.0)	( 6.8)	( 13.7)	( 3.1)	( 9.9)	( 1.2)	(▲ 2.2)	(▲ 3.6)	
	-	-	< 2.9>	<▲ 2.7>	< 7.1>	<▲ 4.1>	<▲ 2.8>	<▲ 7.4>	<▲ 1.1>	< 1.8>	
企業倒産件数(件)	68	66	14	11	17	15	6	4	5	1	6
(前年同期(月)比)(件)	( 1)	(▲ 2)	(▲ 7)	(▲ 1)	(▲ 6)	(▲ 9)	(▲ 5)	(▲ 5)	( 1)	(▲ 6)	( 3)
非居住用建築物着工床面積(千㎡)	622	774	134	216	303	146	27	74	46	64	
	(▲ 32.8)	( 24.4)	(▲ 20.8)	( 68.4)	( 90.4)	( 21.0)	(▲ 49.1)	( 99.2)	( 45.5)	( 12.0)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	▲ 749,754	▲ 376,892	▲ 71,058	▲ 70,442	▲ 47,855	▲ 148,030	▲ 33,670	▲ 62,236	▲ 52,124	▲ 52,156	▲ 49,697
輸出(百万円)	907,716	772,294	156,159	186,791	219,248	206,813	67,846	65,185	73,782	75,737	60,892
	( 5.7)	(▲ 14.9)	(▲ 27.5)	(▲ 20.5)	( 0.4)	(▲ 1.6)	( 4.3)	( 4.6)	(▲ 10.8)	( 16.5)	( 39.5)
四日市港 輸出(百万円)	836,047	725,207	150,580	167,270	211,881	192,622	61,026	58,901	72,695	68,732	59,373
	(▲ 0.0)	(▲ 13.3)	(▲ 25.3)	(▲ 15.5)	(▲ 0.6)	(▲ 1.5)	( 1.8)	(▲ 5.5)	(▲ 0.7)	( 15.6)	( 36.0)
輸入(百万円)	1,657,470	1,149,186	227,217	257,233	267,103	354,843	101,516	127,421	125,906	127,893	110,589
	(▲ 7.6)	(▲ 30.8)	(▲ 45.3)	(▲ 35.5)	(▲ 36.4)	(▲ 10.6)	(▲ 27.4)	(▲ 0.0)	(▲ 2.9)	( 35.4)	( 74.9)
公共工事請負金額(億円)	1,793	1,752	508	603	329	337	55	100	183	224	158
	(▲ 17.4)	(▲ 2.3)	(▲ 1.6)	( 3.1)	(▲ 9.3)	( 8.0)	(▲ 32.3)	( 71.4)	( 5.6)	( 19.3)	( 26.1)
津市消費者物価指数	( 0.2)	(▲ 0.1)	( 0.1)	( 0.2)	(▲ 0.9)	(▲ 0.3)	(▲ 0.5)	(▲ 0.3)	(▲ 0.2)	(▲ 0.4)	( 0.0)
同 (除く生鮮)	( 0.4)	(▲ 0.1)	( 0.0)	(▲ 0.1)	(▲ 0.9)	(▲ 0.2)	(▲ 0.2)	(▲ 0.2)	(▲ 0.1)	(▲ 0.2)	( 0.3)

## <東海3県(三重・愛知・岐阜)>

	2019年	2020年	2020年			2021年	2021年				
			4~6月	7~9月	10~12月		1~3月	1月	2月	3月	4月
大型小売店販売額(全店)	(▲ 1.1)	(▲ 2.0)	(▲ 5.7)	(▲ 3.0)	( 1.4)	(▲ 0.8)	(▲ 2.7)	(▲ 3.1)	( 3.5)	( 13.3)	
同 (既存店)	(▲ 1.1)	(▲ 3.2)	(▲ 8.0)	(▲ 4.3)	( 1.1)	(▲ 1.1)	(▲ 3.8)	(▲ 3.8)	( 4.1)	( 13.2)	
新設住宅着工戸数(戸)	88,566	75,080	18,375	18,157	19,493	17,351	5,264	5,396	6,691	7,193	
	(▲ 0.3)	(▲ 15.2)	(▲ 21.3)	(▲ 17.2)	(▲ 13.0)	(▲ 8.9)	(▲ 15.0)	(▲ 6.4)	(▲ 5.7)	(▲ 0.2)	
有効求人倍率(季調済)	1.90	1.24	1.29	1.09	1.05	1.13	1.10	1.14	1.14	1.15	
新規求人倍率(季調済)	2.90	2.06	1.90	1.88	2.04	2.15	2.22	2.09	2.16	2.06	
鉱工業生産指数	(▲ 1.6)	(▲ 13.1)	(▲ 32.4)	(▲ 13.3)	( 0.8)	(▲ 1.2)	(▲ 6.6)	(▲ 4.1)	( 6.5)	( 29.2)	
	-	-	<▲ 28.3>	< 25.8>	< 10.6>	<▲ 2.1>	< 3.2>	<▲ 4.7>	< 4.3>	< 5.1>	
企業倒産件数(件)	762	746	163	210	172	130	44	35	51	31	41
(前年同期(月)比)(件)	(▲ 71)	(▲ 16)	(▲ 21)	( 9)	(▲ 33)	(▲ 71)	(▲ 37)	(▲ 17)	(▲ 17)	(▲ 53)	( 19)
域内外国貿易 純輸出(億円)	79,893	71,160	8,985	18,468	24,940	20,301	5,818	6,116	8,367	7,856	5,667
輸出(億円)	168,646	141,831	25,899	34,751	42,309	39,915	12,016	12,428	15,470	15,070	12,640
	(▲ 2.0)	(▲ 15.9)	(▲ 39.1)	(▲ 16.3)	( 2.6)	( 2.7)	( 3.5)	(▲ 8.4)	( 12.9)	( 45.8)	( 75.7)
輸入(億円)	88,753	70,671	16,914	16,283	17,370	19,614	6,198	6,313	7,103	7,215	6,972
	(▲ 3.9)	(▲ 20.4)	(▲ 24.1)	(▲ 26.4)	(▲ 20.0)	(▲ 2.4)	(▲ 15.9)	( 10.8)	( 1.0)	( 3.9)	( 36.8)

：各指標における直近の数値